

- ・日時：令和2年5月13日（水）17：00～
- ・場所：県庁本館ドーム会議室

○県副本部長（八矢副知事）

ただいまから、愛媛県・松山市合同新型コロナウイルス感染症対策本部会議を開催いたします。初めに、県本部長である知事から挨拶をお願いします。

○県本部長（知事）

今日は、2日ぶりに陽性の確認が出たわけなんですけども、まず全員で共有しておいていただきたいのは、そもそも、コロナは難敵であって、今後とも、こうしたようなことは全国でも、おそらく夏、秋、と続いていくものと思います。散発的なコロナの陽性確認というのは、これはもう抑えきることができない。そもそも、コロナをゼロにするというのは人間の力では不可能だと思います。ということは、経済死の問題も含めて、根拠のある対応というのが非常に求められています。

かつ、コロナと向き合いながら歩いていくということを、覚悟しなければならないということであろうと思います。御案内のとおりコロナは、8割の方は無症状、あるいは感染力はないというような特性を持っています。もう一つの特性は、既往症あるいは基礎疾患のある方や、そしてまた高齢者の方に重症化の傾向が著しく偏っているという、こういう特色もあります。

コロナと向き合っていくためには基本的な方針として、まず何よりも重症患者の命を救うということが大切になってまいります。そのための指定病院の底上げ、体力強化、これは今も継続して行っているところでありますし、また、もう一つは、道後の壺湯の守の方々、地域の方々の御理解をいただきましたので、67室の軽症者・無症状者の方の宿泊施設、プラス50室も構えてますんで、合計117室、これを準備しているところでございます。もちろん、こちらで重症化の傾向があったときは速やかに指定病院へ運ぶということを考えながらの対応になっていきますが、既に退院者も37名を数えてまして、大半の方が無症状又は軽症のまま完治をし、そして2回に渡るPCR検査の陰性確認の上、社会復帰をされているという、こういう状況にある、この特性というのをまずしっかり押さえておく必要があろうかと思えます。

そういった中で、これから県民の皆さんには、冷静な対応というのが求められてくる。息の長い戦いになりますから、コロナと向き合いながら歩いていくという前提で冷静な対応が必要になってくるということ。そして我々は、しっかりとした調査に基づく根拠のある冷静な対応というのが、今まで以上に求められるというふうに思っており、これから臨んでいきたいというふうに思います。

特に今回は、落ち着いた後の最初の事例でありますから、ここでの判断というのが、今後散発的に出る場合は絶対に避けられませんから、その指針になるということにも気を配

っておかなければなりません。そういう意味で対応を考えていただけたらというふうに思います。

先ほど4時45分くらいに連絡が入りまして、今回の医療機関の陽性判定者のご家族と、一部の同僚の皆さんのPCR検査の結果が判明いたしました。6名のPCR検査を行いまして、2名が陽性でございます。

内訳は、御家族の濃厚接触者4名の方から1名。職場の方2名から1名という状況でございます。御家族の方のうち、お二人が学校関係者でございます。このお二人のうち一人が陽性確認されています。学校関係者二人のうちお一人が陽性なんですけど、この陽性確認された方はそもそも昨日まで学校へ行っておりません。ただ、知り合いの方と接触があったということで、この方を濃厚接触者と認定し、既に自宅待機でPCR検査を実施するという方向で、松山市保健所と調整を進めております。そして、もう一人の学校関係者につきましては、昨日、学校の方には行かれていますけど、こちらは陰性が確認されました。ということで、この段階でこのケースについては、片方は行ってないですから、ここから感染が広がることはない。もう一人の方は、行ってはいるけれども、陰性が確認されましたので、ここから感染が広がることはない。ということで、まずこの点について、この二つの学校関係者の皆様には、この事実を冷静に受け止めて落ち着いていただきたい、というふうに思います。

今後我々は、この医療機関の封じ込めに全力を尽くします。先ほど衛生環境研究所の方にも連絡しまして、ここが勝負所なんで、フル回転対応をやってくれというふうをお願いしていますんで、松山市保健所も相当な負担がかかるとは思いますけども、場合によっては県の保健所からサポートできる場合は言っただけたらと思いますし、ともかく、封じ込めて、しかも封じ込めるためには、調査が重要であると。漏らさず調査をし、可能であれば感染源の特定まで辿り着く。それができない場合は、過去の事例の様に、可能な限り封じ込めを図るということを基本として、徹底的にやりたいというふうに思っています。

なお、本来、今回市の管轄になりますけども、要請がございましたので、これまで同様、県が積極的に関わらせていただきまして、指揮を執らせていただきたいというふうに思います。

そういうことで、この事例の封じ込めは、今、我々にとって最大の課題であるということで、共有していただきながら進んでいきますんで、よろしく願いいたします。以上です。

○県副本部長（八矢副知事）

ありがとうございました。続きまして、松山市の本部長である松山市長から挨拶をお願いします。

○松山市本部長（松山市長）

先般のサ高住の案件では、愛媛県さんと連携させていただきまして、封じ込めをすることができました。厚く感謝申し上げます。

今回も医療機関でのケースでありますので、やはり感染拡大のおそれというものがござります。私の方から知事に要請をさせていただきまして、また連携して取り組んでいただけるということになりました。

とにかく、この感染の拡大を封じ込めていくということに全力を挙げていきたいと思っておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

○県副本部長（八矢副知事）

ありがとうございました。本日の会議は、感染者等の個人情報を取り扱いますので、報道関係者の皆様におかれましては、ここで御退出をお願いいたします。なお、本日の会議の概要につきましては、後ほど、事務方から御説明させていただきます。それでは御退出をお願いいたします。